

日本の知恵、
プラスチックの知恵

越後の雪が産んだ縮織ちぢみおり

「魚沼郡の雪は縮の親といふべし」とは、越後(新潟県魚沼地方)の風土を描いた『北越雪譜』(鈴木牧之)からの一文。小千谷縮は、新潟県小千谷地方を中心に織られている、麻糸を使って独自の風合いを出した夏向きの織物。江戸時代前期に、この地に播磨国(兵庫県)明石から移り住んだ武士が伝授した歴史のある縮織の技法。その特長は、独特のシャリ感のあるシボをつくる「湯もみ」の後、寒中に雪上で麻糸の漂白と風合いを整えるために行う「雪さらし」の作業。それらがさらに擦より強い縮となつて機能性を高め、通気性の良い夏の着物としての小千谷縮おぢやぢみが完成するのです。

一方、フェノール樹脂も、その開発から1世紀を過ぎて、フェノールレジン、成形材料、積層板など、万能な機能性を味方に、未来の高機能プラスチックとして進化し続けています。

小千谷縮



高機能プラスチック製品事業本部

写真提供:小千谷市教育委員会/撮影協力:小千谷織物同業協同組合

プラスチックのパイオニア
住友ベークライト株式会社

高機能プラスチック製品事業本部

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル
TEL:03-5462-4111 FAX:03-5462-4873 <http://www.sumibe.co.jp>

